



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

7日

米国市場が休場ということもあり、ドル円は106円台前半での方向感を欠いた動きに終始した。

8日

ドル円は欧州時間に一時106.38円まで上値を試したものの、米国市場では一転して売りが優勢に。ダウ平均の大幅安や米長期金利の低下などを手掛かりにした売りに押され、一時は105.86円まで下押し場面も見られた。

9日

ドル円はアジア時間に105.80円まで下落する場面があったが、その後はクロス円の買い戻しにつれて下値を切り上げた。欧米株高を受けたリスク・オンの円売りが進んだ影響で、NY時間には106.27円まで反発。もっとも、7日と8日の高値106.38円がレジスタンスとして意識され、同水準手前では伸び悩んだ。

10日

ドル円はアジア時間に106.30円まで上昇するも、週初の高値106.38円手前では再び上値が重くなった。5・10日(ゴト一日)の仲値に向けた買いも目立たず、海外時間にユーロドルが上昇したタイミングでは一時105.98円まで下押し。もっとも、その後は106.20円台まで切り返すなど下値も限られた。

11日

ユーロやポンドなど欧州通貨が取引の中心となるなか、ドル円は106円台前半での小動きが中心となった。8月米CPIは予想を上回る結果となったが、相場への影響は限られた。

総括

先週のドル円は下値の堅いとなった。週明け7日は米国市場が休場ということもあって動意薄だったが、8日には米国株の急落をきっかけにリスク回避の動きが強まり、一時105.86円まで下押し。翌9日のアジア時間には105.80円まで値を下げたものの、海外時間に入ると欧米株高を背景に106円台前半まで切り返した。もっとも、週末にかけては取引の中心が徐々に欧州通貨へと移行。ドル円は「蚊帳の外」となり、106円台前半での狭いレンジ内推移を続けたままで週を引けた。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
8日	08:50	火	JPY	GDP改定値	年率換算	4-6月期	-27.8%	-28.6%	-28.1%
8日	18:00	火	EUR	GDP確定値	前期比	4-6月期	-12.1%	-12.1%	-11.8%
9日	23:00	水	CAD	BOC政策金利	*	*	0.25%	0.25%	0.25%
10日	20:45	木	EUR	ECB政策金利	*	*	0.00%	0.00%	0.00%
10日	21:30	木	EUR	ラガルドECB総裁会見	*	*	*	*	*
10日	21:30	木	USD	PPI	前月比	8月	0.6%	0.2%	0.3%
11日	21:30	金	USD	CPI	前月比	8月	0.6%	0.3%	0.4%

一言コメント・・・ECBは定例理事会で市場の予想通り政策金利を0.00%に据え置きましたが、ラガルドECB総裁が会見で「ユーロ高に過剰反応する必要はない」「水準を目標としていない」との考えを示すとユーロ買いが優勢となりました。

先週の注目された要人発言

7日06:47 ジョンソン英首相「欧州連合(EU)との自由貿易交渉は10月15日までに結論を出す必要がある」
 7日18:01 英政府報道官「我々は常に北アイルランドと英国内で最良な行動をする権利を保持する」「我々は退却する選択を考察している」
 7日19:24 フォンデアライエン欧州委員長「英政府が国際法の義務と前もって必要な将来の協力の下で、離脱協定を履行することを信じている」
 9日23:00 BOC声明「少なくとも週50億ドルのペースでの国債買い入れプログラムを継続」「世界経済とカナダ経済は7月の金融政策報告のシナリオに沿って進んでおり、各国が封じ込め措置を解除するにつれて活動は持ち直している」
 10日20:51 ECB声明「パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)を1.35兆ユーロで維持」「PPEPは少なくとも2021年6月末まで継続」「政策金利はインフレ目標に近づくまで現水準かそれ以下に」
 10日21:40 ラガルドECB総裁「データは強いリバウンドを示唆している」「製造業は改善を続けている」「必要に応じて全ての政策手段を調整する用意がある」「ECBはユーロ相場のインフレへの影響を慎重に判断する」「ユーロの上昇については話し合ったが、ECBは為替には目標(ターゲット)はない」
 11日02:07 バルニエ英EU離脱・欧州委員会首席交渉官「英との交渉、EUはあらゆるシナリオに対して準備を強化する」
 11日15:11 レーンECB専務理事「最近のユーロ高がインフレ見通しを弱めている」
 11日15:59 ビルロフドガロー仏中銀総裁「ECBは為替レートをターゲットにしていない」
 11日18:22 ヴァシリヤウスカスECB理事「最近のユーロの上昇は歴史的に例外ではない」

一言コメント・・・EUは英政府に対して発効済みのEUとの離脱協定の一部を修正する内容を含む英国の国内市場法案を今月末までに撤回するよう要求。一方、英政府は「議会には主権があり、国際条約に抵触する法律も可決できる」と反論。英国のEU離脱をめぐる先行き不透明感が高まり、ポンドが売られる展開となりました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
15日	10:30	火	AUD	RBA議事要旨	*	*	*	*	*
16日	21:30	水	USD	小売売上高	前月比	8月	1.2%		1.0%
16日	27:00	水	USD	FOMC政策金利	*	*	0-0.25%		0-0.25%
16日	27:30	水	USD	パウエルFRB議長会見	*	*	*	*	*
17日	未定	木	JPY	日銀政策金利	*	*	-0.10%		-0.10%
17日	20:00	木	GBP	BOE政策金利	*	*	0.10%		0.10%
17日	未定	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	3.50%		3.25%

今週の注目は・・・各国政策金利

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。